

令和6年度 第4回 学校運営協議会（記録抜粋）

- 1 日 時 令和7年2月4日（火）10:00～12:00
- 2 会 場 浜松みをつくし特別支援学校 会議室
- 3 出席者 学校運営協議委員 6人 学校関係者 9人

今年度最後の学校運営協議会が行われました。高等部卒業生の進路先とコミュニティースクールプロジェクトの成果を報告し、委員の方から質問を受けたりアドバイスをいただいたりしました。学校関係者評価実施報告では、今年度の自己評価と次年度の基本方針をお伝えし、本校の学校教育目標達成に向けての取り組みについて御理解いただきました。以下に内容を一部抜粋してお伝えします。

4 議事

(1) 令和6年度高等部卒業生進路先

令和6年度高等部3年生在籍47人中、就職希望11人、サービス利用希望36人。現時点で全員の進路がほぼ決定している。本人の希望と進路先との適性の見極めについては、希望を優先しながら、高等部の3年間で5回の実習を行い、実習先から受けた評価をもとに自己理解を図りながら決定していく。就職後のサポートは、卒業前に関係者を交え、移行支援会議を行っている。卒業後は、就労・生活支援センターという機関がサポートを継続していく。

(2) コミュニティースクールプロジェクト中間報告

今年度、学校運営協議会の委員の方からいただいたアドバイスを踏まえ、進捗状況を確認しながら実践してきた。地域の方（みをつくしサポーター）には、校外学習の付き添いや作業学習の下請け作業といった気軽に参加できる方法でサポートを依頼し、コーディネーターが学校と地域をつなげるようにした。サポーターと職員の両者から、サポーターの活用は児童生徒たちの人と関わる力を育むことに有効だったという意見が多く聞かれた。

(3) 学校自己評価と次年度の基本方針

今年度の学校経営における成果目標のうち七つがA評価であった。B評価であった「本校の良さや指導について外部に伝える」について、次年度は特別支援教育の専門的なことを発信するよりも児童生徒の教育活動をととして本校の良さを外部に伝えていく方法を取りたいと考えている。成果目標の評価の仕方として、1年間で評価するのではなく、成果目標と関係する教育活動が行われたときに評価をしたり評価する時期を決めたりして、職員の意識が目標から離れてしまうことのないようにする必要がある。

・コンプライアンス委員会

不祥事根絶研修を毎月定例で実施してきた。不祥事根絶のためには、体制作りが大切だと考え、職員が一方的に研修を受けるやり方ではなく、職場の現状を一番理解している部主事や課長が研修の策定・実施を行い、研修を行うようにした。職員同士、コミュニケーションを大切にしながら、風通しのよい職場づくりに努めることができた。次年度は、セクハラわいせつをテーマにした研修を1回増やして実施したい。